

# ユーラシアンホットライン

(お知らせ)

◇ 恒例のユーラシアンクラブ忘年会は12月15日、東京・板橋の「内モンゴル飯店」です。どうぞ。

日時：12月15日午後2時から4時  
場所：埼京線板橋駅から徒歩7-8分  
会費：日本人三千元、留学生千円

内モンゴル飯店 TEL:03-3949-5516

羊料理に中華料理、留学生との懇談、演奏

◇ 事務局財政悪化の折、「クラブサポート会員」(一口1万2千円/年間)になっていただけませんか

現在クラブの事務局は、ボランティアスタッフの寄付で新宿駅から徒歩4分の場所にプレハブの事務所を確保、ミーティングを重ねながら無報酬のスタッフの手で行われています。事務所の維持費以外に、連絡通信費、毎月のニュースレターの発送に郵送料が5万円ほどかかっています。ボランティアの魅力的活動を立ち上げるためには、最低限の財政基盤が欠かせません。ぜひ「サポート会員」になってください。ニュースレターほか、ユーラシアの諸民族の理解と親睦、協力を目的とした催しのご案内をお届けします。またこれまで催し等で知り合いになった方やお世話になった方に無料でニュースレターをお届けしていましたが、上記のような現状により、やむなく次号から「サポート会員」の皆様のみにお届けさせていただきます。ニュースレターは、ホームページ上でご覧下さい。また催し等のご案内は、メールで配信することも出来ます。ご希望の方は、メールアドレスをお知らせください。事情ご賢察の上、お許し願いたいと思います。

大野 遼

「サポート会員」会費振込み口座：東京三菱銀行 虎ノ門支店  
1053500 ユーラシアンクラブ オオノ リョウ

◇ 「ユーラシア紛争地フォーラム」開始

無差別テロ事件をきっかけに、ユーラシア及びユーラシアの紛争地が新たな大国間の政治的ゲームの場と化そうとしています。6千人のテロ被害は痛ましい事件ですが、容疑者のまま「戦争」「十字軍」「西部劇」を口にした無差別爆撃は無辜の市民を巻き込んだテロという行為にどこがことなるのか。すでに20年を超える戦乱で、

◇「プハラ・サシマコム来日特別公演実行委員会」が発足、招聘を決定  
「サシマコム」招聘については、江東区の内部事情を原因とする挫折やユーラシアの平和と安定が脅かす「報復」などの現状があるからこそ「理解・親睦・協力の催し」として実施したい気持ちがありましたが、江東区での年度途中の挫折は思いのほかの衝撃で、招聘受け入れ先を探すことが出来ませんでした。  
このため、10月10日、メーリングリスト上で「受け入れ費用等に不安があるなどで、今回は招聘を停止する方向で検討したい」とお知らせしたところ、「(ウズベキスタンは)アメリカのアフガン攻撃の前進基地としてウズベクが日本人に意識されようとしています。そんな時期のプハラ歌舞団の日本公演はウズベクの真の姿を日本人に知らしめる上で積極的な役割を果たすことと考えます。…皆さんの理解を求めてカンパを集め実現したいと考えます。一口一円でニュースレターを送っているすべての人に、また考古学の研究者などにも呼びかけて実現を図りたい」となどと招聘を推進しようとの呼びかけがあり、さらにこの呼びかけに答える形で、各位から電話及びメールをいただき、「自主公演」実施へ力強いエールを頂きました。  
このため、各氏と意見を交換しながら実施の可能性について再考、関係者に再度打診をしました。その結果、川口駅隣接の川口リリア(川口市総合文化センター)催し物広場の事業責任者、新宿・初台にある東京オペラシティ3階の教会風コンサートホール「近江楽堂」のオーナー、新潟県・柏崎トルコ文化村代表から協力いただけることご返事を頂きました。その後、ウズベキスタン大使館から「ウズベク映画祭実行委員会を開きたいので、きていただきたい」と偶然連絡があり、大使館を訪問したところ、期せずして「11月に予定していた映画祭を3月に延期したい」と提案があり、映画祭と「サシマコム」公演をジョイントして「シルクロード映画芸術フェスティバル」ウズベキスタン文化ウィーク」として開催する企画が受け入れられました。サシマコムの滞在宿泊費を負担しようという篤志家も現れました。多くの方の志で、受け入れが実現できるよう実行委員会の呼びかけに協力ください。

ユーラシアンクラブ代表 大野 遼

100万人を超える人々が死亡し、現在でも無数の難民が直面する絶望と死への恐怖。米国の都合と介入で生まれたタリバンを米国が爆撃するという「正義の報復」。テロの背景や原因、報復の循環を断ち切り、平和の構築を妨げる原因は何か。心ある人々に呻吟させています。イギリスやフランスなど、紛争地形成の背景にある紛争

原因国家。国連すらコントロールし、中東問題の解決に水を差してきたアメリカ及び、かねて言ってきたようにローマ法王は、原因に対する反省の行動、あるいは戦争という道筋ではない方法で、イスラム諸国のリーダーたちと話し合い、紛争解決する責任があります  
が、旧植民地諸国が居座る「新植民地主義」を公然と主張する勢力も現れています。真の民族共生の道筋と紛争解決に必要な考え方を求めて、継続的な紛争地フォーラムを始めたいと思います。フォーラム会員を募集します。貴方の意見を聞かせてください。

第1回<ユーラシア紛争地特別フォーラム>

「文明の衝突」克服と平和の秩序を探る—国家、民族、宗教を超えて—  
「ユーラシアの紛争地の背景—テロリズムとアフガニスタン、チェチェン」

日時： 2002年3月9日(土) 10:00~17:00  
会場： 早稲田大学 本部キャンパス内(西早稲田)小野講堂(7号館)  
(新宿区西早稲田1-6-1)

参加費： 当日1200円前売り1000円(資料代込)

参加定員：(座席数182席)

趣旨

ニューヨークの世界貿易センタービルへの旅客機のハイジャックと自爆テロ。  
バイオ菌テロ。「テロ報復」や大国が介入した戦乱ですでに100万人の難民の死亡している  
アフガニスタン。テロを口実とした第一次、第二次戦争を含め戦乱の耐えないチェチェンを始めとする紛争地。  
人類の将来に大きな不安をもたらした21世紀初頭の重大事件をどう考えたらいいのか。  
国家、民族、宗教を超えた平和の秩序構築にはどんな考え方と手法があるのか、  
テロという犯罪と原因、報復の悪循環、平和と生活安定へのプログラムについて、紛争地  
の難民支援者、歴史家、国際政治の専門家、国際機関の担当者、市民、学生、留学生から聞いて、  
問題山積の国家、民族、宗教を超えた理解、親睦、協力の枠組みを探る。

- 目的： 1)紛争の原因、平和の構築にはさまざまな理解と道筋があり得ることを考える。  
2) 子どもや女性、難民の支援にとりくむ。

主催 「ユーラシア紛争地フォーラム実行委員会」 事務局 特定非営利活動法人ユーラシアンクラブ

プログラム(全体構成)：

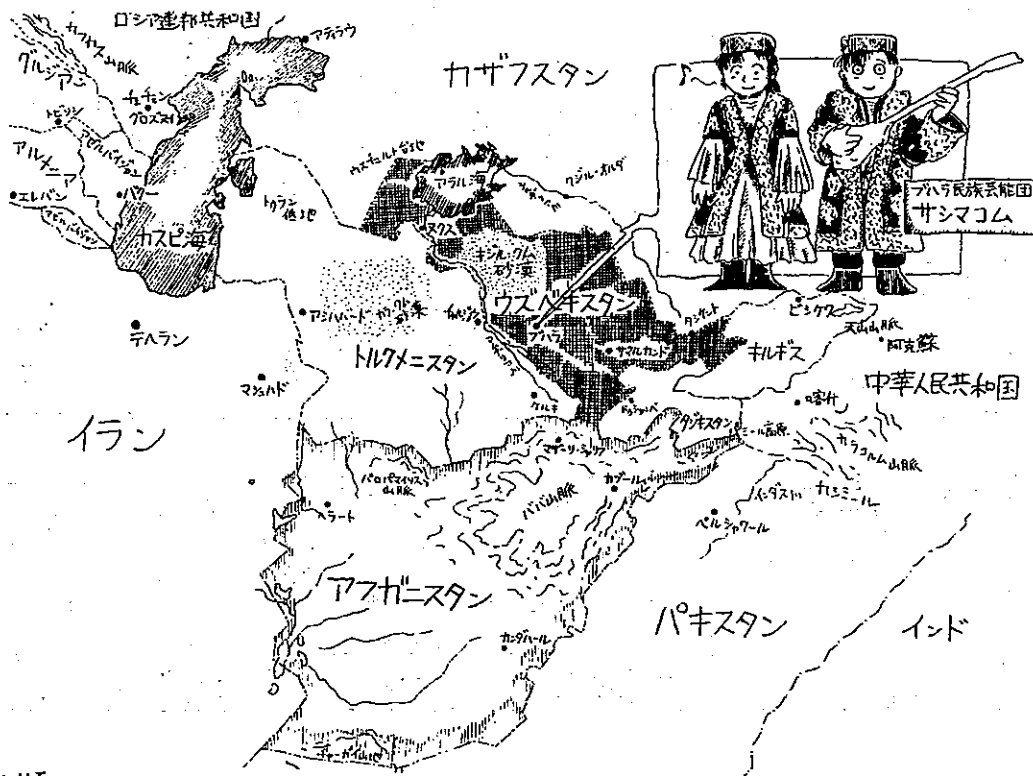
- 第一部 現地レポート 司会 林 克明(フリージャーナリスト/チェチェンリサーチャー)  
難民支援、医療支援、芸術活動等フィールド活動家からの報告
- 第二部 紛争地の歴史的背景 司会 田中 哲二(中央ユーラシア調査会代表幹事/キルギス大統領顧問)  
/ユーラシアンクラブ顧問  
加藤 九祚(国立民族学博物館名誉教授)  
/ユーラシアンクラブ名誉会長  
その他国際政治の専門家に、ユーラシア史の立場から「オスマントルコと中東問題」「イスラエル建国の背景」「アフガニスタンの成立と国際政治」等から解説していただきます(講師選定中)  
○ 資料提供/テロ事件以降の経過(要検討③)
- 第三部 仏教徒からみたアフガン、チェチェン  
◇ 寺沢潤世(日本山妙法寺住職)  
◇ デビッド ロイ(文教大学講師)  
シルクロード音楽の演奏、ウイグルラップ、タンブル、琵琶
- 第四部 「私も言いたい」  
◆ 時間目安:5~10分/1名 × 15~20名
- 第五部 紛争地の平和と生活安定のための後方支援は? 私の役割  
<主催者提案> 1) 紛争地へNGO代表団を派遣、報告会を開く。  
2) 現地NGOと協力し、女性や子ども達への適切な後方支援を行う。  
3) 「実行委員会」は「紛争地地域フォーラム」を継続する。

◇ 留学生フォーラム報告

10月28日、ユーラシアンクラブ会議室で留学生懇話会を行いました。スピーカーはウズベキスタン共和国の留学生ガイラット君とジャン君。二人は同じ共和国出身者ながら、ガイラット君はサマルカンド出身のウズベク人。一方ジャン君は、アラル海の南のカラカラパク人という共和国内の少数民族

族。二人から、ウズベキスタンの経済の動向と社会民族的問題の現状の一端を伺い、質疑応答は大いに盛り上がりました。今後とも会議室を利用したミニフォーラム(10人限定)を続けたいと思います。両君のスピーチの一部を紹介します。

- ▼ ガイラット ソ連時代は、綿花生産量は世界5位。ウズベキスタン国内の60パーセント以上が田舎で、綿花をつくっていた。しかし原材料をロシアに輸出し、加工品を輸入し、深くロシアに依存した綿花生産に特化したモノカルチャー経済で、所得水準は、タジキスタンに次いで低かった。独立後の経済は、CISともロシアとも関係が切れ、カリモフ大統領は、ショックセラピーではなく、漸進的に経済成長する改革路線を選んだ。経済混乱は少なく回復も早かった。現在、主な産業である綿花の生産は全体の3割。年間輸出品目のうち5割まで拡大した。外貨獲得源の3割を占める。綿花の国際市場に依存し、貿易収支に影響を与えている。輸出先はヨーロッパ、ロシアの順。今年は、3000万トン。綿花生産量は100年前から生産を始めて一番多かった時は、6000万トンまで。貿易収支の半分以上を綿花が占めている。ウズベキスタン経済の課題の一つは交通運輸。…過渡期経済の社会混乱で社会的弱者を救うため、古くからのコミュニティであるマハラ(地域部族共同体)を復活させ、経済的に困っている家族に食べ物、寝る場所、お金を援助する施策が打ち出されている。3月のナブルズの祭りなどイスラムが誕生する前からの祭りもあり、コミュニティが機能している。
- ▼ ジャン カラカラパク自治州の首都、ヌクスで生まれた。カラカラパク人はホスピタリティがあってお客さんにあったかい。ヌクスは緑が多く、まだ天国のような場所だが、ウズベクの人ですらペットボトルなどの人工的水を飲むほど水が悪い。ソ連時代に米、小麦、綿花3つの作物栽培にたくさんの水を使うようになり、1960年代から水が減り始めた。アムダリヤ、シルダリヤの水がカラカラパクに届かず、ウズベクでの灌漑水の利用で最悪の状態になった。アラル海の水も15メートル水位が下がった。水量が減って、悲しい話だが、飲み水が汚くて、肥料が流入し、子ども達の死亡率が世界でも最も高い地域となっている。タシケントはあちこちに噴水があってきれいな町でだが、実は壊したくなる。すごい、水の無駄遣いが多い、カラカラパクは150万人が困っているのに、芝に水をやるのは反対。日本で緑化や水を作る活動をしている団体と知り合いたい。国旗は、ウズベクと同じ形だが、真中が黄色。これは砂漠を示している。星の数は、12個がウズベク、カラカラパクは5個。カラカラパクは黒い帽子(カラパクが帽子)という意味。ヌクスまでタシケントから飛行機で1時間以内。バスだと24時間。人口は、カラカラパク人、ウズベク人、カザフ人。30パーセントずつ。のこりはタタール、ドイツなど。学校は、カラカラパク語とウズベク語。昔はロシア語とカラカラパク語。カザフ語。現在は、ロシア語は減らされている。大学も、ウズベク語かカラカラパク語。公式には、ウズベク語かカラカラパク語を使うようにいわれている。日本では経営を勉強しているがホビー。羊のことは私の人生のデザート。パソコンの勉強をして、経済的に何とかして、帰って、私の将来の夢は羊を飼うことです。



K-W

<短信>

◇ シェルゾドに赤ちゃん誕生

ウズベキスタンに帰国した元留学生、シェルゾド・ザヒドフ君に、タンシュケントで10月29日朝、3750gの男の子が誕生しました。母子ともに、元気で、子供の名前はDIYORと名づけられました。

◇ シカチアランコミュニティキャンプ管理とサポートのための予備的協議進む

前号でもお知らせしたとおり、ハバロフスクから70キロ、アムール川の岸边にある先住民族ナナイの村シカチアラン住民のナナイ文化の保護伝承や村づくりのための自助努力の拠点として確保したキャンプを「コミュニティキャンプ」「日本人との交流と協力促進の拠点」として利用するための話し合いが

続いています。

村側は村長のニーナさんを代表とし住民12人で構成する「コミュニティキャンプ管理委員会」を発足させ、キャンプ地の点検、清掃や可能な修繕を始めています。

日本側は、ユーラシアンクラブ監事の木野保幸氏を代表とする「コミュニティキャンプサ

ポート委員会」が近く、キャンプ地の共同利用者となる「サポーター」を募集します。キャンプの修繕に必要な経費として102万円を提供していただいた方に修繕後の施設を無料で使用していただき、交流促進に力を貸していただきたいという趣旨です。ご協力をお願いします。

◇ ペーチャ君に薬剤が届けられました

薬剤は、モリアミン S、ベルジピン 200T、セロクラールで、脊髄の血液滞留や脳循環改善に必要な薬です。新潟大学医学部の山内春夫先生、ハバロフスクから新潟大学医学部泌尿器科へ医学交流で来日中のV.ピリム先生、小出町で医院を経営されている庭山・昌明先生のご協力を頂き、特にピリム、庭山両先生には、専門的見地から薬剤の有効性の検討が

ら確定、担当医との連絡・相談、薬剤の購入までのご協力をいただきました。薬剤は、担当医の希望に添って、最終的に現地の医療事情を踏まえて、確定されました。

これから現地での治療が始まりますが、元気だったペーチャ君の下半身は血液滞留で完全に固定し、膝を折って寝たきりの状態です。ピリム、庭山先生のお話では、リハビリなど総合的な治

療が必要で、治療の結果も予断ができにくいのが現状です。症状の改善を祈りたいと思います。

(追伸) 11月22日大野の自宅の留守電にペーチャ君のおばあさんからお礼の電話が入っていました。何度も何度も「スパシーバ」を繰り返し、協力してくれた皆さんによるしくと話していました。クラスニール村の自宅で喜んでいる様子が伝わってきました。

◇ <人物紹介>内モンゴル出身の映像作家・詩人 イ・アロハン ◇

映像にこだわる、ウエットな心を持つモンゴル人である。

1999年、より豊かな体験とより広い視野を求めて日本へ留学した。

なぜ日本だったのか。

「アジアにながらヨーロッパであると言ったのが、どういうことかを体験して見なかった」

来日後、東京大学大学院で文化人類学を学び、後に、早稲田大学大学院で演劇映画を専攻、テーマは、黒澤明の映画創り。修士課程修了。在学中、写真展を開き、テレビドキュメンタリーの取材などに携わってきた。

「機械化された社会環境の中で、遺匠子が継承をされて、生産される多くの動植物のように人間の魂が製造されている。その天然性、特に感情を如何に守るか」。大きな課題に気づき、深く考えるようになった。「これからも、映像と文章を通して語っていきたくと思う」

内モンゴル自治区ホルチン地域出身。1969.3.22生まれ。1985年北京中央民族大学民族言語、文学部卒業。専門、モンゴル語民族言語、文学。1988年同大学院卒。専門、蒙漢古異文学の比較研究。1982年から詩、エッセイ、論文をモンゴル語、中国語で雑誌、ラジオなどに発表。1988年-1993年までの5年間、内モンゴル映画撮影所で脚本家として勤め、脚本、詩、エッセイ、映画翻訳、映画翻訳などを多数発表。1992年優秀映画評論賞受賞。1と、着実な仕事を積み上げてきた。

早大大学院終了後、昨年のモンゴルの雪害取材、北条時宗取材コーディネーター、今年の四川省など取材の仕事が増えた。最近、番組「トラック野郎」-中国横断5000キロの取材成果は、NHKハイビジョン放送で7月26日夜7:30から放送された。写真も撮り続けている。

モンゴル言語文化塾、写真展への参加、鎌倉合宿、等クラブとの付き合いは深い。「ユーラシアンクラブとの付き合いは数年以上になりますが、多くの人と知り合い、交流できるチャンスをもたらしてくれる大野会長及びサポーターたちに感謝しています」

日本でオーケストラ団員の石橋美奈子さんと結婚。内モンゴル写真家協会会員。現在の夢は、早く写真とエッセイを合わせた本を出版すること。「クラブの皆様のご支援をお願いします。これから、もっと多くの国々に行き、人々と文化のあり方を体験したい」。

(編集後記) 今年は、思いがけない体験をしましたが、暮を迎えて、嬉しい気持ちにさせていただきました。サシマコムの招聘と紛争地フォーラム。いずれも理解親睦協力促進のための活動です。ご支援よろしく。

(発行) NPO 法人ユーラシアンクラブ (発行人) 大野遼 (編集人) 井出晃憲  
住所: 〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-13-2 第一広田ビル  
電話/ファックス 03-5371-5548 E-mail: PAF02266@nifty.ne.jp  
homepage: http://homepage1.nifty.com/EURASIANCLUB/